

ユビキタス・ワイヤレスコミュニケーションのためのミリ波メディアコンバータの研究開発（ユーディナデバイス株式会社）平成16年度中間評価結果

項目	評価	所見	再評価	再所見
総合所見	A	<p>近距離大容量ワイヤレス通信、特に無線パーソナルエリアネットワーク(PAN)のニーズはますます高まっており、研究開発と標準化が内外で盛んになってきている。ミリ波周波数の爆発的利用促進を可能とする本研究開発の意義は引き続き大きい。中間目標を満たす一次試作のミリ波メディアコンバータを完成し、サブテーマにおいてもほぼ目標を達成している。一方 IEEE802 委員会による標準化活動では、UWB 方式利用およびミリ波帯利用の新しい標準策定の動きがあり、UWB など競合する技術に十分対応できる研究開発成果と魅力的応用の広報宣伝が期待される。また、低コスト化だけでなく、外形サイズや形状においても、応用面を考慮した検討を行うことが望まれる。また、ミリ波は壁の透過が難しいこともあり、需要ニーズや無線ホームリンクなどの応用面の検討も重要である。</p> <p>本研究開発成果である「ミリ波メディアコンバータ」は、ミリ波 MMIC とアンテナの一体化、低価格化により、家電製品での普及を目指した事業化戦略であり、妥当である。また、当該製品の実現とこれを用いたアプリケーションの登場により、大容量通信が可能で周波数資源として有望視されてきたが、コスト高などにより事業化されにくい周波数として考えられてきたミリ波応用市場が、世界的に一気に展開される可能性があり、市場の魅力が高い。</p>		